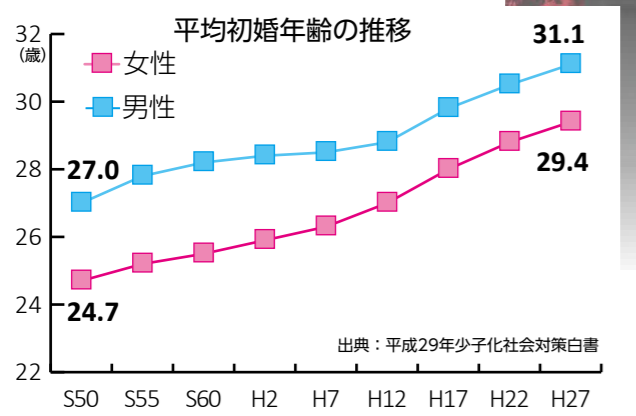
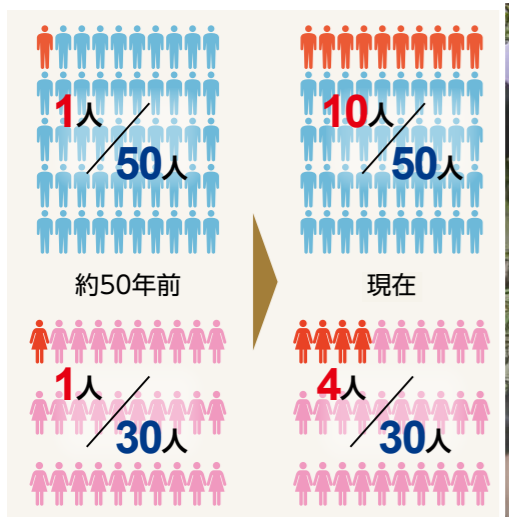
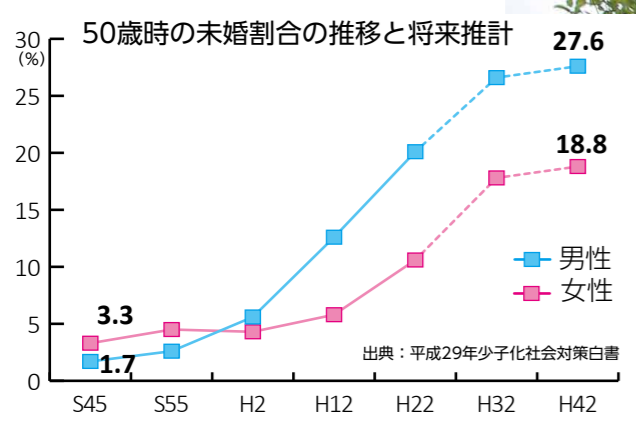


結婚

「婚活」という言葉が一般的になって久しい。お見合い結婚が主流な時代から、自然に男女が出会う恋愛結婚の時代。そして、今や婚活の時代へ。今回の特集では、そんな男女の出会いをはじめ、結婚を取り巻く環境の変化や行政の取り組みなど紹介する。



変わりゆく結婚事情

“最近、身の回りで結婚しない男女が増えた”という実感をお持ちの方もいるかもしれない。未婚化・晩婚化は急激に進み、今や男性の4人に1人、女性の7人に1人が生涯一度も結婚しない世の中になっている。ここでは、結婚を取り巻く環境はどのように変化してきたのか、見ていくことにしたい。

時代とともに変わる結婚事情

晴れやかな空に教会の鐘が鳴り響き、多くの祝福の声と花びらが新郎新婦に舞う。人生の一大イベント「結婚」。別々の道を歩んできた二人が、これから共に幸せな家庭を築くことを誓う人生の門出だ。その言葉通り、出産や子育てなど新しいライフイベントのスタートとなる。

そんな結婚事情も時代の流れとともに大きく変化。お見合いによる結婚が大半だった時代から、恋愛結婚へと主流が変わり、今では9割が恋愛により結婚をしている。一昔前までは、結婚は家族の関心事。子どもが適齢期を迎えると、親戚や近所の人が相手を探してお見合いを設定するケースも多かった。しかし、時代は変わり、結婚は個人の問題に。家族や近所の人が積極的に関与する風潮は、今やほとんどない。

進む未婚化と晩婚化

50歳時点で一度も結婚したことがない人の割合を生涯未婚率という。一般的に将来結婚する可能性が低いと考えられることから、生涯独身者を示す指標として用いられている。男性の生涯未婚率は約50年前には17%であったが、その後上昇を続け現在では23.4%に。また、女性も同様に3.3%から14.1%へと上昇し、この流れは今後も続くことが予想される。

さらに、未婚化とともに進んでいるのが晩婚化。初婚の平均年齢は、過去40年間で男女ともに4歳ほど上昇。男性は31.1歳、女性は29.4歳となった。「適齢期」という言葉が指す年齢も、これから少しずつ変わってくるだろう。

結婚しない世の中に

未婚化・晩婚化の要因として、よく言われるのが「価値観の多様化」。しかし、市が実施した結婚に関する意識調査で「独身である理由」を尋ねると、「異性と出会う機会がない」「理想的な相手にめぐり逢えない」という回答がともに4割を超え最多に。また、同調査で「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」と答えた人の割合を合わせると85%を超える。価値観の多様化というよりも、「結婚したいが、結婚しにくい」世の中になっていることがうかがえる。